

月例会ダイジェスト【74】

2021年4月より「改正高齢者雇用安定法」が施行され、70歳までの就業確保措置を講じることが事業者の努力義務となった。この動きと関連して5月のさんぽ会が設けたテーマは、「高齢労働者～モチベーションと人事制度」。コーディネーターは、海野賀央氏（SCSK（株））、金森悟氏（帝京大学大学院）、江口泰正氏（産業医科大学）、福田洋氏（順天堂大学）。

最初に登場した海野氏のテーマは、「高齢労働者の働き方を人事はどのように考えるべきか」。冒頭、高齢者の就労を促す主な要因とも考えられる「体力」と、「就労意向」に関するデータを提示。高齢者の身体機能が向上していること、また、「70歳以上も働きたい」と考えている人が、全体の約4割いることなどを挙げた。

また、海野氏が勤務するSCSKの取組みも紹介。定年後も頑張りによっては現役時代並みの収入が得られる制度への改定や、自立的なキャリア形成・資産形成などのライフプラン実現の支援、健康面のサポートなど、各支援制度を導入しているが、「これらはあくまで“支援”で、大切なのは高齢者の自主性。本人の意欲やリテラシーのバランスをみながら、一緒にキャリア形成をしていきたい」と、結んだ。

金森氏が取り上げたのは、「高齢期の就労による健康への影響」。「高齢期の健康増進につながるポイントとして、“経済的自立”“社会参加”が考えられる」と前置きしたあと、就労者の死亡リスクが、無就労者より低いことを示した追跡調査や、生きがいを求めて就労している人のほうが、健康悪化リスクが低いという研究データなどを示した。さらに、「健康効果を高めるためには、生きがいを感じられる仕事につくことが重要で、金銭目的のみの場合は、経済・健康などの面で何らかの支援が必要」とする研究者の考察も引用した。

65歳以上を対象に死亡リスクと企業規模（従業員数）との関連を調べた独自調査では、1万人以上の企業に勤めていた男性の死亡リスクは、9人以下の企業に比べて22%低下していたこと、趣味に参加している人の割合は、大企業のほうが大きいことなどから、「規模の大きい会社に勤めていた人ほど、高齢期の健康面においても、メリットを受けている可能性がある」と分析した。

最後に「就労、あるいは地域活動など、何らかの社会参加をすることが、高齢期の健康に良い影響を与えていると思う。就労する場合は、やりがいを感じられるような仕事であることが望ましいのではないか」と、高齢者の健康と働くことへ

のモチベーションが、密接に関わっていることを示唆した。

「働き続けるために求められる体力とは」というテーマで発表したのは江口氏。「これからの時代は、健康寿命だけでなく、労働寿命の延伸も求められるのではないかと述べ、どのような体力が労働寿命の延伸につながるかを、さまざまな資料等をもとに説明した。

高齢者の労災発生状況の統計では、原因として最も多かったのが「転倒」であることや、運動介入効果をレビューしたメタアナリシスデータでは、重心移動をゆっくり繰り返す太極拳の効果が高かったことを挙げ、「高齢者に特に有効なのは、筋持久力をつける運動ではないか」と考察した。

また、「酸素を供給し得る能力は我々の労作能力を支配する」と示唆した白井伊三郎氏の論文も引用し、「労働寿命の延伸のためには、筋持久力や全身持久力といった、行動を持続できる能力が重要」とまとめた。ただ、「労働体力が、労働寿命におよぼす影響の研究はまだ途上。例えば暑熱環境下での労働者も高齢化しており、防衛体力（環境から身を守る体力）と、労働寿命との関係を調べていくことも必要」と、今後の研究課題も示した。

ディスカッションでは、「再雇用後は賃金が下がるといいうが、そもそも現役時の賃金が高すぎたという見方もある。総合的に人件費をコントロールしていく必要があると思う」という人事担当者の意見や、かつて管理職だった人に、どのように仕事をアサインすればよいか悩む現場の声などが紹介された。

人事担当者や高齢就労者も多数参加した今回のさんぽ会について、「高齢者の就労について健康を主体にした議論は多いが、今回は人事的な視点で種々の課題を議論できたことに価値があった。一定の収入とやりがいを求める従業員、年齢を問わずスキルある人材が欲しい企業、労働力確保が課題の国の現状など、さまざまな思惑が交錯するも、諸先輩方の発言に明るい未来を感じるとともに、基盤となるモチベーションと健康の重要性を改めて感じる月例会となった」と福田氏がコメント。最後に「企業、労働者それぞれの立場や視点があるが、“お互いに頑張ろう”というのが、永遠のテーマだと思う」（海野氏）、「高齢者が働くことは、健康面においてセーフティーネットとなっている側面がある。そういう視点も、国や会社の制度づくりに加えてはどうか」（金森氏）、「やはり求められる体力あつての労働。高齢者が増えていくなかで、その研究が進んでいくことを期待したい」（江口氏）と、各コーディネーターが総括した。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>